

## 愛知県「トマト以外の品目症状概説.txt」

### <症状を調査したクロピラリドの濃度>

低濃度： 4 p p b相当

高濃度： 4 0 p p b相当

### <高濃度でも症状の現れなかった作物>

イチゴ（とちおとめ、章姫、ゆめのか、紅ほっぺ）

エンサイ

オカノリ

コマツナ（浜美2号）

ハウレンソウ（パレード、治郎丸、晩抽パルク）

タマネギ（赤たまねぎ）

フダンソウ（ブライトライト）

### <症状が認められたもの>

#### 1 ウリ科

##### (1) 調査した作物（品種）

トウガン（姫とうがん）、スイカ（黄小玉）、ニガウリ（島さんご）、メロン（プリンスメロン、イエローキング）

##### (2) 症状の特徴

葉：葉表側に葉縁部が持ち上がりカップ化する。

茎：メロンは、高濃度では節間が短くなった。

トウガン、スイカ、ニガウリでは症状がなかった。

花：メロン‘イエローキング’では、雌花が太く長く変形した。

それ以外のウリ科品目では症状はなかった。

果実：メロン‘イエローキング’では、果実の花痕が大きくなり、果形を乱す。

それ以外のウリ科品目では症状はなかった。

#### 2 マメ科

##### (1) 調査した作物（品種）

インゲン（さつきみどり2号(つるなし)、モロッコ(つるあり))、ササゲ（華厳の滝、十六ささげ）、ソラマメ（仁徳一寸）、

ラッカセイ

##### (2) 症状の特徴

茎と葉：ソラマメは高濃度では枯死した。低濃度では葉のカップ化、変形、矮化が認められた。

インゲンは、低濃度でも心がとまり、その下からわき芽が発生する。高濃度では第1節で心がとまるため、脇芽が発生

しない。

高濃度の場合、茎がわん曲する（インゲン‘モロッコ’）。

ササゲは、低濃度では心止まりせず、葉の変形のみ認められる。高濃度では心止まりするが、脇芽が発生する。

ラッカセイは、低濃度ではわずかに葉がカップ化し、高濃度では明らかにカップ化する。

葉は、初め未展開葉がよじれ、その後、表側に巻き上がりカップ化する、小葉の先が細く尖る、葉が振れ矮化する、な

どの症状が現れる。

花：葉の症状が激しい場合着花しない。葉の症状が激しい場合でも、時間の経過やわき芽の伸張により着花する。

インゲンの低濃度およびササゲの高濃度では着花時期が遅れる。ササゲの低濃度およびラッカセイでは着花時期の遅れはなかった。

着いた花に形態の異常は認められなかった。

果実：異常は認められなかった。

(3) 作物、品種による症状や程度の違い

ソラマメおよびインゲンが最も激しい症状を呈した。ラッカセイは供試したマメ科植物の中では最も軽い症状を呈した。ササゲは中間であった。

ササゲでは2品種検討したが、障害の特徴、程度ともほとんど違いはなかった。

インゲンではつるなしの‘さつきみどり2号’とつるありの‘モロッコ’を検討したが、心が止まる症状、葉の症状に違いがなかった。

3 ゴボウ（越前白茎）

(1) 症状の特徴

葉身がカップ化する。葉が硬化する。  
地下部の形態に異常はなかった。

4 フキ（愛知早生ブキ）

(1) 症状の特徴

葉身がカップ化する。葉が硬化する。  
低濃度では、初期には葉柄がやや長くなる。葉面積が小さくなり、生育が劣る。

5 シュンギク（さとゆたか）

(1) 症状の特徴

葉の幅が狭くなる。葉面積が小さくなると生育が劣り、それ以後に展開する葉が小さくなる。小葉の先端が肥厚する。

6 ミツバ（先覚、白茎みつば）

(1) 症状の特徴

葉が葉表側に葉縁部が持ち上がりカップ化する。低濃度では症状は現れなかった。

(2) 品種による違い

なし

7 ヒユナ（－）、タバコ（BY4号）、モロヘイヤ（－）

(1) 症状の特徴

葉が葉表側に葉縁部が持ち上がりカップ状になる。濃度が高いと、葉が両側から巻き込み細く見える。

(2) 品目による違い

品目による症状の特徴に違いはなかった。

モロヘイヤは低濃度で発症せず、ヒユナとタバコでは低濃度で軽いカップ化が見られた。

8 ツルムラサキ（赤つるむらさき、緑茎種）

(1) 症状の特徴

葉がカップ化するまたは、小刻みに波打ったようになる。葉の先端が細く尖る。  
蔓や茎には症状は現れなかった。

9 セルリー（トップセラー）

(1) 症状の特徴

高濃度では葉がカップ化する。低濃度では目立った障害は発生しなかった。